

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

## 国をささえる税

南相馬市原町第三中学校

3年 にしはた 西畑 かな 加奈

私は、小学6年生の頃まで税のことについて全然知らなかったし、興味を持ったこともありませんでした。

そんなある日に学校で税について学ぶ教室がありました。そこで聞く言葉はどれも聞いたことのない言葉や、驚くことばかりでした。

人は、生まれてきた以上税金を納めなければいけない、またお金があるのに税金を納めない人が少なくないということも知りました。

私たち小、中学生は税金で義務教育のおかげでちゃんとした学校で、きれいな教科書で、優しい先生方のもとで勉強出来ていることを知り、とても恵まれ、幸せなのだと実感しました。

一方では、日本が抱える借金に不思議に思うようになりました。不思議に思った私は、母に日本の借金と税は関係しているのかと聞いてみることにしました。すると母は教えてくれました。日本の借金は税と関係しているということです。一つの命が誕生するごとにその赤ちゃん一人一人が多額の借金を抱えなければならないということも、母は私に教えてくれました。なぜ生まれてきたばかりの子供が借金を負担しなければいけない世の中になってしまったのか、私には分かりません。なぜここまでも日本の借金が出来たのか、不思議でたまりませんでした。

しかし、税をずっと未来へつないで行きたい、日本中の皆にきちんと納税してほしい、とても大切な宝物だと思うのです。

私がそう思う理由は、2年前の3月11日忘れることのない東日本大震災のことでした。だれすらも、人の影すらない、ほとんどのお店は閉まったまま、大切な友人とも別れ、各県へ避難し、何も希望のない毎日でした。ものすごく胸の痛んだニュースも目に

しました。福島の野菜は食べ物じゃない、放射線がうつるなど福島県民にとって、最悪なニュースが流れたこともありました。怒りよりも悲しみが襲ってきました。

しかし、私たちを救ってくれる人は、本当にたくさんいました。避難先で温かく迎え入れてくれた友達、支えてくれた家族、たくさんのお金、そしてこの国の税金。

たくさんのお気持ち、応援、国の税金で今もまだ復興しています。この大きな震災がなければ、人の温かさ、税の大切さが分からなかったと思います。もう2年が経ちますが、今だに苦しんでいる人たちがいることを忘れないでください。

これからの未来を明るくするために、私たちが将来大人になった時に、今、日本のために納税してくれている人に恩返しができるように、精一杯働いて、社会に貢献できる人間になりたいと思います。

今度は、私たちが日本を支える番です。